

NEWS LETTER



NO.21

2005.4.20

発行：にほんごひろば岡本

〒658-0003 神戸市東灘区本山中町 4-18-22

☎078-453-5931

<http://www.kabto-yama.ac.jp/hiroba/>

にほんごひろば岡本

あなたの夢

毎週日曜日の夕方、世界の子供たちのインタビューで終わる
NHK テレビの番組『海外ネットワーク』がある。

「大きくなったら なにになりたいですか？」

学校の先生！

サッカーの選手になるんだ

お医者さんになって、病気で苦しんでいる人を助けてあげたいの

歌が好きだから歌手になりたいな・・・

お店を作って、みんなにいろんな物をあげるんだ（売るんじゃないの？）

「学校から帰ったら なにをしますか？」

お母さんのお手伝い。遠くまで水を汲みにいくのよ

弟や妹の面倒をみて一緒に遊んであげる・・・

きょうだいげんか？ウッフ・・・時々するけど、すぐ仲直りするよ

「お金がいっぱいあったら どうしますか？」

お父さんとお母さんに全部あげる

困っている人たちに全部分けてあげる（自分は欲しくないの？）

恥ずかしそうに、でも人なつっこい笑顔で一生懸命にテレビカメラに向かって答えている。

多分、教科書も充分いきわたっていないかもしれない。家には食べ物も余るほどないかもしれない。
服は、いつも同じものを続けて着ているだろう。それでも、この子供たちはなんと優しく暖かい心を
惜しみなくみんなに与えていることか！

私は、一週間のストレスをこの子供たちの笑顔で消してもらっている。

ちなみに 私のまわりの日本の高校生に聞いてみた。

「もし、一千万円あったらどうしますか？」

とりあえず、貯金します

もうちょっと足して、誰も持っていないような凄い外車を買う

貯金して、年を取ったらその利子で生活したい

今、思い出してみてください。あなたの夢を

（古家峰子・ふるやみねこ）



「にほんごひろば岡本」での地域日本語ボランティア活動

副代表 下田美津子

最近、ある日本語教室に関わっている人から、「文法のことを聞かれるのではないかと」と思うと教えるのが不安だ」というボランティアの人が多いという話を聞きました。「日本語を勉強したい」という学習者のニーズを“学校型”の日本語教育（多くの日本語学校が行っている直接法の日本語教授法で、日本語だけを使い文型を積み重ねていく方式）に置き換えてしまうと、地域の日本語教室はミニ日本語学校化していきます。そうするとどんなことが起こるのでしょうか。

地域の日本語教室が“学校化”するとボランティアが日本語学校教師化することになります。つまり日本語を教える技術が必要になってきます。地域によっては日本語教室がアジアからの多くの技術研修生の日本語指導の受け皿になっているなど、本来は行政による支援が必要な“学校型”日本語教育を地域のボランティアが担っているという事例も見受けられます。日本語ボランティアをするための予備的な講座があちこちで開かれるようになってきているのもそういった背景があるからでしょう。

しかしこうした“学校型”日本語教育の尺度だけで日本語支援を行うと、ボランティアの不安はエンドレスに続くことになり、教える技術の多い少ないでボランティア間の格差が出てきます。地域の日本語教室の事情はさまざまでその地域の特質に根ざした多様な支援の形があり一概には言えませんが、“学校型”だけの日本語支援はどうもボランティアを幸せにしないようです。少なくともボランティア活動というのはそれを行う人にとって喜びであってほしいものです。

「ひろば」も発足当初は同じような悩みを経験しましたが、幸いなことに学習者の多様化と学習支援の形の多様化という時代の波と、ボランティアと学習者それぞれのニーズと個性をうまくマッチングすることによって“学校型”日本語教育だけが支援のものさしではないという共通認識が定着してきました。ボランティア間の“学校型”教授技術格差によって起こる差別化がなく、それぞれの個性にあった生き生きとしたボランティア活動が続けられていることは本当にうれしいことです。

最近の「ひろば」の活動からいくつかの事例を紹介しておきましょう。ワーキングホリデーで韓国から神戸に来て「ひろば」を知り、その後再び仕事で来日し「ひろば」に通っていた金さんは『韓国でも「ひろば」のような集まりがあったらいいのにと思いました。韓国に帰ったら「ひろば」のようなものを作りたい』と話してくれました。日本語学習だけではない地域社会の人的ネットワークの作り方までしっかり見ているようです。松蔭の在学中に「ひろば」でボランティア活動に励み、卒業後地元の広島県でそのときの経験を生かして地域日本語教室の中核的役割を担っている人もいます。そのほか学習者の母語も交えながら悩みの相談にのっているボランティアもたくさんいますし、日本の高校に通う中国人の少女に社会や歴史、古典の学習支援をしている方、また英語学校教師のかたわら猛勉強の末、日本語能力1級試験に受かり、西村代表の強力な推薦を追い風にニューヨークで日系の企業にめでたく就職が決まったグレッグさんのケースなど活動の形はさまざまです。確かに日本語学習の目に見える“成果”は学習者はもちろんのこと、ボランティアにとっても励みになりますが、「ひろば」の役割りはそれをはるかに越えて広がっているようです。

2004 年度は前年に引き続き、日本語教育の教授技術向上を目指したいボランティアのためのステップアップ講座（5回）、新しい試みとして支援者と学習者両方を対象に「発音クリニック」のワークショップ、そして従来のお花見、バーベキュー、クリスマス会とは別の観点から参加型のワークショップ

のひとつとして、「ことばは国境を越えられないが、仕掛けは国境を越える」をキャッチフレーズに交流会を行いました。

異文化間コミュニケーションのトレーニングの手段を地域日本語教室の参加型学習として取り入れる試みは最近各地でおこなわれています。グループ・ワークやゲームで参加者間の心の壁を取り払うというものですが、今回は日常の一方向的な語学学習ではなく双方が自分をひらいていくという自己開示型の活動（以前のワークショップで「自分を語る」というトレーニングをペア・ワークで行ったのを覚えておられるでしょうか）が単発のワークショップでどのようにできるか、欧米直輸入型ではないやり方はないものかと考えて企画したものです。

そのための仕掛けとして「七夕」が選ばれたのですが、結果として何か「もの」を通して教えたり教えられたりしないと交流ができないのではないかという、ある種の不安症候群がわたしたちのなかにあることに気づかされました。参加型学習へのボランティアの内発性をどうやって引き出していくか、これには時間がかかるかなという思いでした。しかしその杞憂が消える日は意外に早くやってきました。ボランティアの方々が企画した年末のクリスマス会の多様なゲームに参加しているうちに、希望の光が見えてきたのです。学習者もボランティアも関係なく、楽しい気分と時間を共有している場がそこに確かにありました。次のステップは参加者がお互いを知ることです。ひとり一人の名前と顔と個性を人間関係のネットワークに組み込み、地域社会でより豊かな社会生活を営める基盤を作ることです。

さて今年はどんなワークショップにしていくなのか、ことばを学習するというだけの狭い交流ではなく、ことばを越えて交流する、何語でもいい、どんな手段を使っても交流できるということを小難しいことを考えずに日常的にすいすいと実践しているボランティアのみなさんのキャパシティの大きさが頼りです。学習者とボランティアという固定した役割りについても考え直したいところです。枠組みを変える様々な試みをこれからも模索していきたいと思います。新年度のワークショップのアイデアをお寄せいただけるとうれしいです。

今年はお花見できましたよ！

去年は雨でできなかったお花見。今年は誰の行ないが良かったのか？天気予報もはずれてくれましたね。2005年4月10日（日曜日）、気温も上がって満開の桜のもと、芦屋川河畔でひろばのお花見ができました。風も少し吹き、ビールやお弁当の上にも花びらがかり、風情豊かなお花見でした。お花見のお知らせが遅くなったのでそれぞれ予定を立てたあとだったようで、例年より集まっていた人数は少なかったのですが、ひろばのお花見らしく、みなさんといろんなお話がゆっくりできました。お弁当も食べ終えた頃から天気予報どおり曇って風が少し出てきて、川面には花びらが流れ、「花筏」がきれいでしたよ。来年はもう少し早くお知らせをしますので楽しみにしてください。

当日は残念ながら、参加できなかった竹中さんと渡辺さん、前日の夜、場所取りをしていただきました。また、お弁当の買出しや運搬に花粉症を押して出てきてくださった古瀬さん、ほんとうに有難うございました。おかげで、みなさん写真の通りの笑顔でお花見ができました。



もしかしたら、お天気が良かったのは、この方々の行ないのせいかもしれせんね。



《支援者の旅立ち》

神戸松蔭女子学院大学の学生ボランティア5人が卒業されました。学習支援はもとより、いろいろなイベントでは、一生懸命でつた手伝っていただき、また花も添えていただき、ほんとうにご苦労様でした。写真右より森喜代子さん、下田安奈さん、野原絵梨花さん、下田先生、佳山理絵さん、岡本由美さんです。森さんと岡本さんは中国の北京外国語大学の日本語教育に携われるそうです。一層のご活躍をお祈りし



ます。みなさん、これからもひろばにはいつでも遊びに来てくださいね。

クリスマス会などでもとてもお世話になった山口初穂さんも5月からはフィリピンで日本語教師として活躍されます。健康に気をつけて頑張ってください。

フレイフレーみんな！！

《学習者の旅立ち》



2003年のクリスマス会のスピーチ大会で堂々1位を受賞した林恒焔君が高校生活を終え、4月から熊本の崇城大学の薬学部に進学されます。彼はバドミントン部に入り、今時珍しい2食（朝・夕）付き、バストイレ共同の下宿屋で大学生活をスタートするそうです。九州のいろいろな所に行くことをとても楽しみにしているそうです。「林君の熊本便り」を約束してくれました。みなさんも、楽しみにしておいてください。携帯アドレスを教えてくださいましたから、ホームシックや5月病にならないようにメールを送ってあげてください。



(kouen23reliable-0-ezweb.ne.jp)

支援者・学習者紹介

今回は新しい支援者お二人にそれぞれの学習者の紹介を兼ねて、自己紹介をしていただきました。

★大津邦子さん・フィットリさん

(インドネシア出身・女性)

共に学ぶ喜びを実感

昨年、神戸市の「日本語学習支援者養成講座」を受講後、折角学んだことを、どこかで役に立てられたら、と思う気持ちで、この「にほんごひろば岡本」の仲間に加えていただきました。



日頃、私たちが何げなく話している日本語を、外国の方に学んでもらうことがこ

んなに難しく、真剣に耳を傾けてまじめに学習されている様子は、とても嬉しく思う反面、教える側の幅広い知識や工夫が必要とされ、まだまだ私自身勉強することがたくさんあると実感しています。

私の学習者は、2003年3月に来日されたフィットリ・ドゥラニさんです。彼女は神戸大学に留学中のご主人(アグーン・スドラジャドさん)と2003年10月に生まれた娘のナナミ(七海)・アマリアちゃんと暮らしています。とても聡明な28歳の女性です。とても熱心に学習され、ひろばに来られるのが楽しそうです。

彼女の故郷のインドネシアは、昨年暮れのスマトラ沖大地震で、甚大な被害を被り、多くの

被災者が出ました。

彼女はその様子を一生懸命、私に話してくれました。

「ひろば」の皆様も募金に協力してくださり、とても感謝しているようです。(8ページ)

これからも、楽しく支援を続けてゆきたいと思っています。

★山口慎子さん・呉フィーチャーさんと呉チャーリンさん

(台湾出身・女性)

にほんごと日本を学ぶ子供たちと私

ふとしたきっかけで受けた日本語教師養成講座が意外にハードで、修了して正直なところ、ほっと一息というところであった。そろそろ始動をと思っていたところ、同じ講座を受けていた友人から、にほんごひろば岡本を紹介された。自宅からも近いし仕事をしながらでも通えるからという、軽い気持ちで訪ねてみた。

すると、すぐに台湾からの呉フィーチャーさんとチャーリンさん姉妹を受け持つことになった。彼女た

ちはインターナショナルスクールに通う多感で優秀な子供たちである。彼女たちが通う中学校で



も、日本語は学んでいるようだが、にほんごひろば岡本での彼女たちは、リラックスした中にも意欲にあふれていて、とても教えやすい。

こちらの準備不足のときなど、中だるみがあり、

ゲームやあそびも取り入れて飽きないように進めてはいるが、興味を持続させるのはなかなか大変なことではある。しかし、時には好きなポップスの話や興味を持っている友達の話など、この年代特有の話もしてくれて、教えると言うよりこちらが楽しませてもらっているという感覚である。

使える日本語はもちろん、日本の文化も紹介するなど、ひろばで日本語を学んでよかったと思ってくれるような内容にしたいと思っているのだが・・・。

みんなのひろば

ろば

耿 碩宇さん 陸游研究の本を 出版!

2002年のクリスマス会のスピーチ大会で「似て非なる中国語と日本語」という

素晴らしい話をしてくださった耿さん（その時の写真を掲載しています）が、2004年10月に『陸游・陸詩に関する研究』という本を出版されました。



中国の文化大革命の最中に、河南省の地で、黄河の洪水防止用の堤防づくりに、毎日、裸足で借り出される中で手にした『毛沢東選集』の中の陸游の一首の詩句が、耿さんの心のエネルギーになったのだそうです。

著書の序文に耿さんの友人の言葉がありました。



中国の文化大革命の最中に、河南省の地で、黄河の洪水防止用の堤防づくりに、毎日、裸足で借り出される中で手にした『毛沢東選集』の中の陸游

「耿さんと松江へ行く機会がありました。晩秋の荒れる日本海の波を見ながら

『これが海ですか。水に香りがあります』

耿さんの言葉に、私は潮の香りに対する新しい経験を得た思いがしました。

松江の雨の中、静かに降る雨滴を見上げながら、

『雨が町を掃除しています』

松江の町は、突然、詩的な世界へ変わっていききました。

ひろばにも著書をいただきましたので、是非、一度手にとってみてください。

《Shimauchi DAYORI》

皆さん こんにちは。

お元気ですか。 私は元気にやっています。

先週の土曜日 12 日にマニラからビコールのカマリネススー州の州都ナガ市に移り住みました。

マニラよりさらに南だからでしょうか、ここはマニラよりもさらに暑いです。昼間は、ジリジリ、という表現が適当なくらいです。今、日本は寒いんでしょうね～。

ビコールは、ルソン島の南東端の地域で、ここナガ市は、マニラからバスで 10 時間です。ビコールという呼び方は、関東や関西というのと同じ、地方の名前です。ビコールには、6 州あり、私はそのうちのひとつカマリネススー州の州都ナガ市にいます。

この州政府が、日本語コースを開設するというところで、私が派遣されてきました。ここは、州政府の施設がいくつもある広大な敷地の中です。本庁舎の他、コンベンションホールや宿泊施設、私が勤務する学校もあります。私は、やはり敷地内のガバメントマンションと呼ばれるところに滞在しています。これはゲストハウスのようなもので、部屋はホテルのス



ウィートのように広い部屋を使わせてもらっています。

学校は、徒歩3分ほどのところにあり、マニラのように排気ガスに悩まされることはありません。到着後、すぐに打ち合わせに入り、日曜日にも打ち合わせ、月曜日からはオリエンテーションとインタビュー、水曜日から授業スタートと、あわただしい一週間でした。

その疲れか、今日の休みは、一日中寝たり起きたりの一日でした。

近いうちに地図を手に入れ、次の休みには一人で街の散策に出かけようと思っています。空気は澄んでいますし、部屋にはエアコンがありますし、近く（1時間位）にはビーチもあります。

日曜日に連れていってもらったビーチは、波のない（風）とても静かな海で、夕日もとても素晴らしかったです。マニラ湾の夕日も綺麗だそうです、ここの方が綺麗なのは・・・

気分は南国リゾートですが、毎日6時間の授業スケジュールなので、現実ハードです。今回スター



トの学生数は120人で、とてもすぐには名前を覚えられません。2カ月のコースですが、終わりころには覚えていられるでしょうか・・・（笑）

先週火曜日に、知事と初対面し、知事室で夕食の会食がありました。最年少州知事だそうです、とても頭の切れる人物だという印象を受けました。彼のおかげで、と言っては失礼なのですが、ここに来ることができ、120人もの学生に教えることができる、

ということを楽しんでいます。こんな経験ができるのは、今のところ私だけなんですからね。このプロジェクト担当のトップの方もスタッフも皆親切ですので、とてもいい環境で仕事をさせてもらっています。こちらに到着した夜は、そのトップの方の自宅での夕食だったのですが、その時に、私を8番目の子供だ、というほど、歓迎してくれました。（年齢でいうと上から2番目になるそうですが・・・笑）

この周辺には、綺麗なビーチがいくつかあり、温



泉がでることところもあるそうです。滞在中に誰か連れて行ってくれないかな、と思っています。一人で行くのって寂しいですもんね。

そうそう、毎週月曜日の朝には庁舎のエントランスで、Flag Ceremony というのがあり、全職員が集い、国旗掲揚と国歌斉唱が行われます。先週、私も参加しましたが、ちょうどバレンタインということで、私も赤いハートのスティックをもらいました。その後、紹介され、みんなの前で自己紹介をしました。

オリエンテーションでは、150人の前でスピーチ、と緊張することが多い一週間でした。明日からは、平穩???な授業のみになるのでしょうか・・・授業では、変な緊張がないですからね。

では、また。

みなさん、お元気で。

嶋内 悟さんの連絡先

Email : satoru1201@kcc.zaq.ne.jp

URL : http://www.kcc.zaq.ne.jp/shima_s-cafe/

■お知らせ■

インドネシア・スマトラ島沖地震にお見舞金を

ひろばもこの大災害に何か協力できないかと考え、募金協力を呼びかけました、その結果、71,000円が集まりましたので、在日インドネシア留学生協会を通じて救援金を渡しました。協会は5ページ



で紹介している学習者のフィトリさんのご主人アグーン・スドラジャドさん（神戸大学留学生）たちが積極的に活動している団体で、責任をもって支援に役立てますとの書面をいただきました（ひろばに提示してあります）。なお、衣類（洗濯が済んでいる夏物）の提供は引き続き受け付けていますので、ご協力をお願いします。

（写真は救援金を渡したときのフィトリさん家族です）

CONTENTS

★レポートいろいろ………2

ひろばでの地域日本語ボランティア活動

今年のお花見

★旅立ち………4

学生ボランティアさん・山口初穂さん・林恒焔くん

★支援者・学習者紹介………5

大津邦子さんとフィトリさん

山口禎子さんと呉姉妹

★みんなのひろば………6

耿 碩宇さんの本

嶋内悟さんのマニラ便り（最終便）

★お知らせ………8

スマトラ島沖地震にお見舞金を



◎教室の場所が変わりました。今までの建物の JR の線路を挟んで向かい側です。

◎嶋内さん 4 月 15 日、帰国！！

「生嶋内」に会いに来てください。

〔編集後記〕

今年はお花見ができてホッとしました。その思いが強かったせいか編集子はなんと「お花見のハシゴ」をしました。少しですが、大阪城の桜を楽しんでください。（I・M）